
杯中蛇影があり今日も痛みにせがむ

御坂星蓮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

杯中蛇影があり今日も痛みにせがむ

【Nコード】

N0457H

【作者名】

御坂星蓮

【あらすじ】

奴が造反を起こしてから、全てを信じる事が出来なくなってしまう。俺は本当に、生きている者なのか？

（前書き）

読んでいて鬱な気分になられてしまう様な方も居るかもしれない内容です。閲覧は自己責任でお願いいたします。

我が日々を思うまま綴った書より。

初春

親友が、造反を起こした。

戦の途中、劣勢になると奴は敵の軍へ平然と寝返っていった。
本陣まで猛進し、我が主を討とうとする。

伏兵であった俺が、奴を撃破した。

大切な人を、また一人失ってしまった。

信じていたのに。

本当に、信じていたのに。

もう、何も信じられない。

俺には味方なんて一人も居ない。

ああ、全てが敵に見える

晩冬

主から、盃を受けた。

我が軍には、優秀なる精鋭が揃っている。

比較的皆より能力の劣る俺は、必要ではない存在なのかもしれない。
酒に毒を盛って、俺を殺してしまおうと企んでいるのではないか。
俺はまだ、死にたくはない。

恐怖から盃を交わすことなく、主からの信頼を失った。

早春

軍の調練があった。

俺の背後には、何百。何千。何万。

兵が並び訓練をしているのだ。
その中でも俺の真後ろに居た兵は、血気盛んな者であった。
下剋上として、背後よりその槍で俺は突かれてしまうのでは？
恐怖から城へ戻ってしまい、犢蹙ひんしゆくを買われてしまった。

晩春ばんしゆん

隣国りんこくとの、大きな戦があった。

敵の陣が崩れ掛けた所を、奇襲を仕掛け見事敗走させた。
そして大将首を獲り、勝利。

本当に勝利したのか？本当は、勝利と見せ掛け浮き足立った俺を
殺そうとしているのでは？

恐怖から本当に心から喜ばず、宴うたげに参加することなく寢床ねいじょうについ
た。

ここで日記は途絶えていた。

俺は、川べりに腰をかけていた。

このような時が一番落ち着く。

だが、本当に落ち着いているのだろうか…

ふと、背後より肩を叩かれた。

殺すつもりで叩いたのか？殺されるのかと思った。

「最近のお前は少し病んでいるのではないか？病む必要など何処に
あるのだろうか」

奴が造反を起こした頃から、俺はおかしくなった。奴のせいだ…

「過去を振り返るな。病む必要などない。お前はこんなにも立派に、
雄々しく存在しているではないか！」

仲間からのその言葉。

『存在しているではないか!』

その言葉は、本当か？

本当に、俺は生きているのか？

生きて…いないのでは？

そして俺は城内に戻り、卓上の短剣を手にする。
己の腕を、傷つける。

汚れない赤き血が、一直線地を目掛け流れる。

俺は痛みを感じるのだ。

ああ、『今日も』生きているのか。

こんな風に毎日同じことを繰り返す。

空を見上げ、毎日同じことを呟くのだ。

空はいつも青いのだなあ。

(後書き)

ありがとうございました。

杯中蛇影とは、疑いの心を持っているとありもしないことに怯える
という意味だそうです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0457h/>

杯中蛇影があり今日も痛みにせがむ

2010年10月13日16時48分発行